

令和4年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	阪南 市議会
報告者	議長 岩室敏和 副議長 欠席 事務局長 井上 稔
視察日時	令和4年7月28日(木) 14:00~16:00
視察先	福岡県 古賀市
概 要	<p>議会改革の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会改革推進のために設置した議会活性化特別委員会の取組について。2年間を要し議会基本条例を制定</li> <li>・毎年度テーマを決め執行部に政策提言を行う<b>政策推進会議</b>の取組</li> <li>・台風や地震といった自然災害だけでなく新型コロナウイルス感染症のような感染症対応を踏まえた<b>災害対策会議</b>の設置と取組</li> <li>・議会と大学(地元の福岡女学院看護学院)との<b>パートナーシップ協定</b>とそれに基づく取組</li> <li>・議会改革で一定の成果をあげてきたが、近年全国的な評価が下がっており、要因を検証したところ、①議会報告会で高校生や政策サポーター等多様な参加の有無 ②住民の不安解消、課題解決に向けた議員間討議の有無 ③常任委員会で議員間討議を行い執行部に政策提示したかの有無とのこと。</li> </ul>
所 見	<p>議会改革の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市議会でも一昨年より、議会改革をより一層推進するため、議会改革推進検討会を設置しており、現在今年度中の議会基本条例の制定に向け取り組んでいるところであり、非常にタイムリーなテーマであり、議会基本条例の制定をはじめ、今後の課題である議会BCPの策定や執行部へ政策提言を行う仕組みなど成果の多い内容であった。</li> <li>・とりわけ、議会基本条例に基づく政策推進会議は、全議員参加の下、議員間でテーマを出し合い、議員間で研究・協議を行い、政策提言できる精度まで至ったものについて執行部に提言を行う等もので、これまでに地域公共交通や気候変動など4つのテーマに提言を行っているが、バス乗車調査や市民アンケート、ゼロカーボンシティ宣言など、いずれも執行部の取組に結実されており、提言だけではなく成果を出されているところは見習う点が多いと感じた。</li> <li>・本市でも若年層の政治への関心を高めることは課題であり、議会基本条例のなかにも関係規定を盛り込む検討をしているが、議会が地元の高等教育機関と連携し、学生が議員に毎年度のようにインタビューを実施されるなどウィンウィンの関係で取り組まれていることは非常に羨ましく、本市では令和6年度末に地元の唯一の府立高校が市外の高校との機能統合で閉校となることは残念であり、これに替わる他の方策を模索する必要性を強く感じた。</li> </ul>

令和4年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	阪南 市議会
報告者	議長 岩室敏和 副議長 欠席 事務局長 井上 稔
視察日時	令和4年7月29日(金) 10:00~12:00
視察先	福岡県 大牟田市
概要	<p>議会改革の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会基本条例の制定及び検証(毎年度)について</li> <li>・議会基本条例に基づく議会報告会の実施及びそこで出された意見についての議会へのフィードバックの仕組みづくり(政策等調整委員会の設置等)と市の施策への反映について</li> <li>・議会基本条例に基づく反問権の運用について</li> <li>・学生との議会報告会の実施</li> <li>・常任委員会委員任期の複数年化(昭和60年9月から2年任期に)</li> </ul>
所見	<p>議会改革の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古賀市議会同様、現在、議会基本条例の制定に向け取り組んでいるところであり、非常にタイムリーなテーマであり、策定協議のなかで議論になっている議会報告会については詳細な説明をいただき、又そこで出された意見についての取扱い等非常に参考になった。</li> <li>・特に議会報告会では、近年コロナ対策として出席者を限定し実施されているが、それまでは実施初年度から出席者毎年度安定(9会場で約250~280人前後)しており、市民への広報や実施方法なども工夫されている点も大いに参考になった。</li> <li>・議会報告会では、議会活動の報告だけではなく、ワールドカフェ方式で参加者が意見を出しやすい形式で運営されており、各テーブルに議員が参加することで多くの意見は各班の討議の中で完結しやすい仕組みを作られており、報告会から持ち帰った意見については政策等調整委員会を経て関連の常任委員会で協議等を行う仕組みづくりを行い、執行部に提言すべき事案はその都度提言できる制度設計をされている点が市民からの信頼を高め、多くの参加者の得る要因になっていると感じた。</li> <li>・学生との議会報告会では、複数の大学、高校等と連携し、意見交換会方式で意見聴取を主な目的として開催されており、今後の地元を担う若い世代の生の声を施策形成に反映させるためには大変有異議な取組であり、学生から出された意見を広報広聴委員会でとりまとめ、議長から市長に要望される仕組みも、この取組を継続して実施するためには必要不可欠なものであると強く感じた。</li> </ul>